

教科（科目）	社会（地理的分野）	学年（系）	1年
使用教科書	中学社会 地理的分野（帝国書院） 中学校社会科地図（帝国書院）		
副教材等	アドバンス中学地理資料（帝国書院） 中学必修テキスト地理（帝国書院） 社会の自主学习地理①・②（新学社） 学習の達成地理①・②（新学社）		

1 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- ・我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

2 指導の重点

- ・小・中・高のつながりを意識し、小から高への橋渡しする役割を担っていることを自覚して指導する。
- ・様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付け、「地理的な見方・考え方」を用いて多面的・多角的に考察したり、公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしながら、より明確な形で地域の地理的な課題を見出すように指導する。
- ・基礎的・基本的な地理的知識を確実に身に付けさせる。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	備考
4	世界と日本の地域構成	P 2～23	・世界の地域構成 ・日本の地域構成	13	
	世界のさまざまな地域	P 24～43	・人々の生活と環境		
5	世界の諸地域	P 50～91	・アジア州 ・ヨーロッパ州 ・アフリカ州	14	
6		P 96～127	・北アメリカ州 ・南アメリカ州 ・オセアニア州	14	
7	日本のさまざまな地域 地域調査の手法	P 130～141	・身近な地域を見直そう ・調査テーマを決めて調査計画を立てよう ・調査を進めよう（1）、（2） ・調査結果をもとに考察してまとめ、発表しよう	10	

9	日本の地域的特色と地域区分	P 142～167	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の地形 ・日本の気候 ・地震・火山災害 ・災害にそなえるために ・人口 ・資源・エネルギー ・工業・産業 ・交通・通信 	14	期末考査
10					中間考査
11					
12	日本の諸地域	P 174～215	<ul style="list-style-type: none"> ・九州地方 ・中国・四国地方 ・近畿地方 	14	
1		P 222～249	<ul style="list-style-type: none"> ・中部地方 ・関東地方 	11	
2		P 256～282	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方 ・北海道地方 	11	期末考査
3	地域のあり方	P 283～293	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題と特色をつかもう ・地域の課題の要因を考察しよう ・課題の解決に向けて構想しよう ・まちづくり会議を開こう 	4	

計 105時間(48分授業)

4 課題・提出物等

課題 ①週末課題 ②長期休業課題 ③定期テスト前課題 ④自主課題

提出物 ①地理の自主学習ワークノート ②学習の達成

5 評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	評価基準
評価の観点	我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解していると同時に、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	評定> 各観点の合計点 達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
評価方法	以上の観点をもとに、 ・授業の取り組み(授業態度や学習活動への参加状況)・課題への取組状況・小テスト ・定期テストなどから総合的に評価します。			
	A 十分満足できる…70%以上 B おおむね満足できる 40%以上 C 努力を要する…40%未満			

6 担当者からの一言

「地」は土地や大地や地球のことで、「理」は物事の筋道や理由のことです。地理ではこの「地」の「理」を学んでいきます。ときには、身近な地域である自宅や学校の周りのようすを「虫の眼」になって見たり、空高く飛んで「鳥の眼」になって見たりして、日本や世界のようすをとらえてみましょう。

